



NIA SQUARE スクエア

Quarterly News

第79号

2007年9月1日
習志野市国際交流協会

Special I NIA 20周年記念行事

Special II タスカルーサ市からのメッセージ

Special III これからの日比関係

Report シアトル通信

Information さようなら俳句コンテスト

Report 英語研修派遣感想記

Who's who こんにちは・コンニチハ

Challenge ザ・英文クロスワードパズル

習志野市国際交流協会設立20周年 おめでとう！

■106人が参加して盛大に開催

平成19年8月4日、茜浜ホール（習志野市茜浜2-7-2）において、会員・来賓等106人（内在住外国人13人）の出席のもとに協会設立20周年記念式典（初代会長・林安次氏へ感謝状贈呈）・記念講演・記念祝賀会が盛大に開催されました。この模様はJCN船橋習志野の番組にも収録されています。

■記念式典（10：00～10：30）

会長あいさつ



習志野市国際交流協会は、習志野市がアメリカ合衆国アラバマ州タスカルーサ市と姉妹都市提携を結んだ翌年の昭和62年（1987年）に設立されました。その設立趣意書には、「私達は、タスカルーサ市との交流を実りあるものとする」と合わせて、世界各国の人々の触れ合い

によって国際性豊かな習志野市民となるため市民一人ひとりの力を結集して設立する」と記されています。

爾来20年、まったく異なる文化・習慣を持つ二つの都市は、青少年交流、草の根レベルの市民交流等をおして「世界は一つ、我々の願いは、世界平和！」という単純明快な思いをますます堅固なものにしてくれます。習志野市国際交流協会は、今後とも、更なる友好の輪を広げてゆく覚悟であります。

さて、目を国内に転じれば、この20年間にグローバリゼーションの大きな波は、日本をも例外とはしませんでした。本協会にあって、現在、世界26か国、103名の外国人が日本語を学んでおります。彼らを教える講師陣も87名という体制です。わが協会の日常活動の中では、群を抜く最大の活動で、習志野市の多文化共生社会実現の一端を担っているわけですが、この傾向は今後ますます顕著になるものと思われます。

タスカルーサを訪れる際にいつも目を見張るのは、青少年の素直で、のびやかな姿です。質素な服装、旺盛な自立心、大学における猛勉強、どれもこれも日本の青少年が残念ながらあまり持ち合わせていない側面ではないかと思ひます。若いうちに一度は外に飛び出せ、と願うばかりです。青少年の夢の実現のための手助けをぜひしたいと願っております。

最後に、今日まで本協会の発展のために惜しみなくご支援を賜った習志野市民の皆様、習志野市当局、諸先輩の方々に厚く御礼申し上げて挨拶いたします。



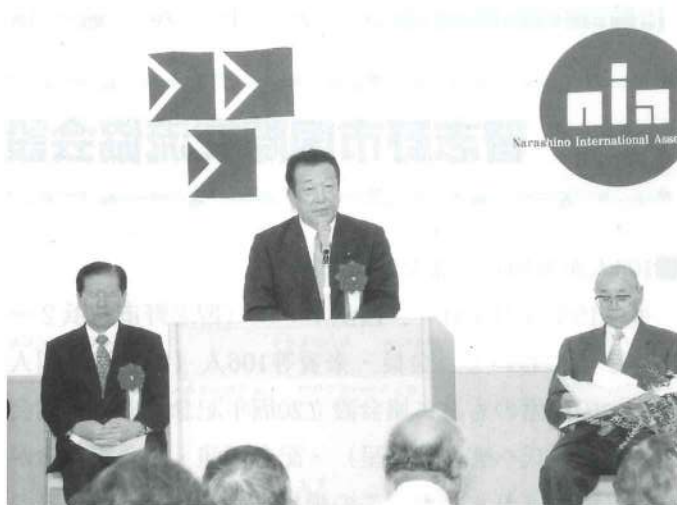
荒木市長あいさつ



左より山田会長・本城副会長・吉村副会長



高橋司市議会議長あいさつ



佐藤正己県議会議員あいさつ

感謝状贈呈

林安次顧問のこれまでの功績^{こうせき}に対し、山田会長より感謝状と記念品が贈呈^{かんしゃじょう}されました。

林顧問は、昭和62年7月18日に開催された協会設立総会において初代会長に選任^{せんにん}されました。以来平成13年までの15年間にわたって、当協会の充実発展に多大な貢献^{こうけん}をされました。そして会長を退任^{たいにん}されてからも顧問としてご尽力^{じんりょく}をいただいております。心より感謝申し上げます。



林安次顧問に感謝状贈呈



記念式典・記念講演司会・松井理事（日本語学習部会長）



“乾杯” 島田副市長

協会設立20周年記念祝賀会



司会 吉田理事（交流部会長）



懇談・くつろぐ皆さん



懇談・くつろぐ皆さん



懇談・くつろぐ皆さん



在住外国人の皆さん

問2 日本の人口は（2005年調べ）世界で（ ）番目です。

Special II / THE NIA FROM TUSCALOOSA

タスカルーサ姉妹都市委員会のリサ・キース専務理事からのお祝いの手紙が届きましたので、彼女の原文をここに紹介します。参考までに翻訳を添えました。(編集部)



Konnichiwa! It is with great pleasure and sincere Congratulations to the Narashino International Association on celebrating its 20th Anniversary.

During the 20-year sister city relationship between Tuscaloosa and the City of Narashino, Japan,

our partnership has become very dear; in 20 years time our friendships have grown richer and deeper with mutual respect and understanding.

Former Tuscaloosa Mayor Alvin Dupont, and current Tuscaloosa Mayor Walt Maddox send heartfelt congratulations, and are committed to continuing the important work to bring people and cultures together to promote friendship and peace.

Many Tuscaloosa Sister Cities Commission members were eager to offer praiseworthy comments about the NIA.

Dr. Marilyn Emplaincourt, retired director of the University of Alabama Japan Program and charter member of the Tuscaloosa Sister Cities Commission:

Through the ongoing hard work of the NIA, we have had the great fortune of getting to know Narashino, its beauty, culture and educational programs, its wonderful and generous people, and to have the opportunity to develop so many strong and lasting friendships.

Mari McPherson, JVC representative:

Cultural exchanges like those coordinated by the NIA help people and nations come together. I hope that these special friendships and programs will continue to grow even stronger and thrive as the years continue.

David Ford, professor of management and marketing at the UA and longtime member of the Tuscaloosa Sister Cities Commission:

Thanks to the partnership of the NIA, we have hosted students and adults since 1993 and have always found it a rewarding experience. Sharing lives and cultures only brings people closer together helping to insure peace and understanding. We realize that no matter what country/culture you are in; that people are much more alike than different and that most of the folks in the world

are good people who want the same things for themselves, their families, their loved ones and friends. We have kept in touch with many of our visitors and have even visited them on occasion. We have watched students grow up into pharmacists, businessmen and teachers. We have participated in family events such as weddings and births, and developed lifelong love and understanding. The Tuscaloosa Sister City Commission has been a social, educational and even financial boon for the community of Tuscaloosa and West Alabama bringing the people of diverse cultures into closer relationships with one another. I am proud of my long association with Tuscaloosa Sister Cities and look forward to its continued success and expansion into other countries/continents.

The bonds of friendship are strong and the generosity of the Japanese people knows no bounds.

Rufus Lewis, charter member of the Sister Cities Commission:

The one thing that stands out in my mind was the time Byron was in Narashino City for an official event. There was a parade in which Byron participated. All along the parade route, people kept coming up to Byron to greet him. His height, no doubt, singled him out but he had experienced contact with everyone who greeted him during the parade.

On a personal and professional note, it is an honor and privilege working with the NIA to coordinate ongoing educational and cultural exchanges between Narashino and Tuscaloosa. So many friendships have been formed and are sustained through these efforts. Programs, events and "peace through people" visits like these enrich the lives of our people, community, and state. We are very fortunate in Tuscaloosa that our successful partnership with Narashino has grown richer and better as the years continue.

To all our friends at the Narashino International Association in Narashino City, a heartfelt "Arigatoo" and Congratulations! Thank you for the gift of your partnership and friendship!

Lisa Keyes, Executive Director
Tuscaloosa Sister Cities Commission

タスカルーサ市から習志野市国際交流協会へ

こんにちは！

習志野市国際交流協会が20周年記念を祝うにあたり、とても喜ばしく心からお祝いを申し上げます。

タスカルーサ市と日本の習志野市が、20年間にわたる姉妹都市関係を通じて、我々の提携がより親密なものになりました；20年間、お互いの尊敬と理解により、我々の友情は密に、かつ、より深いものになりました。

タスカルーサ市の前の市長、Alvin Dupont、いまの市長、Walter Maddox 両氏は、心からの祝辞を伝えてきています。この両氏は、人々と色々な文化を引き合わせ、友情と平和を推し進める重要な仕事に専念されています。

タスカルーサ姉妹都市委員会のメンバーから、習志野市国際交流協会に賛辞の言葉が贈られてきました。

Marilyn Emplincourt 博士から；（アラバマ大学、Japan Program の理事を引退。タスカルーサ姉妹都市委員会の創立委員）

「習志野市国際交流協会のたゆまぬ努力によって、美しい街、文化と文教の街、しかもおおらかですてきな人達のいる習志野を知る機会に恵まれ、変わる事のない固い友情を育む機会にも恵まれました。」

Mari Mc Pherson から；（JVCの代表）

「文化交流、たとえば習志野市国際交流協会の交流などは、いろいろな国と人々を引き合わせるきっかけになっています。私は、このような特別な親交・プログラムが更に大きく膨らみ、これからもますます栄えていくことを期待します。」

David Ford 教授から；（アラバマ大学で、経営・マーケティング担当。タスカルーサ姉妹都市委員会の古参会員）

「習志野市国際交流協会との姉妹都市提携に感謝しています。我々は、1993年以来、学生達や多くの成年の面倒を見てきました。いつも貴重な体験ばかりでした。生活を共にし、文化を分かち合うことで人々を近づけ、平和と理解を得る助けになっています。たとえあなたがどんな国／文化圏にしようとも、人々はよく似通っていて、違いはないことを実感しています。世界中の人々はみな良い人達ばかりで、自身のため、家族のため、愛する人や友達のため、同じことを追いつめていきます。我々は学生達が薬剤師になったり、実業家や教師になって活躍しているのを見守っています。」

家族の出来事、例えば、結婚式や誕生日に招かれたり、終生変わらぬ愛と理解を、お互いに持ち続けています。

タスカルーサ姉妹都市委員会は、タスカルーサと西アラ

バマのコミュニティーのため、社会的、教育的、そして財政面でも援助し、いろいろな文化圏にいる人々を、お互いにより親密な関係ができるように務めています。

私はタスカルーサ姉妹都市委員会と長い関わりを持っていることを、とても誇りに思っています。そしてこの成果が更に広がり、他の国々／大陸にも及ぶことを期待しています。友情の絆は強いものです。日本の人々の寛大さには、とても深いものがあります。」

Rufus Lewis から；（当姉妹都市委員会の創立委員）

「私の心に、いまでもくっきりと思い出せるのは、Byron さんが公式行事で習志野市に滞在していた時のことです。彼がパレードに参加しました。パレードの道すがら数多くの人が近寄ってきて彼に話しかけました。恐らく、彼の身長が抜きんでていたので直ぐに彼と分かったのです。パレード中に話しかけてくれたその人達と会う機会があったことです。」

習志野とタスカルーサが進めている教育・文化交流を通じて、習志野市国際交流協会と一緒にお仕事ができることは、私個人としても、また仕事の上でも、とても名誉であり光栄でもあります。数多くの友情が培われました。これらの努力を通じてこの友情は育まれています。このようなプログラムやイベント、また“数多くの訪問者を通じての平和”は、我々の生活やコミュニティー、そして国を豊かにしています。私達はタスカルーサにすることがとても幸せです、というのも、習志野市との姉妹都市提携による成功が、年と共に豊かに、より善いものに成長しているからです。

習志野市にある習志野市国際交流協会のお友達の方に、心から“アリガトーとおめでとう！”をあなた達とのこの提携と友情の贈り物に感謝を！

Lisa Keyes、専務理事

タスカルーサ姉妹都市委員会



Special Ⅲ／設立20周年記念講演

日本とフィリピンは、今後、一層緊密な補完関係を構築していくことが大事です。そこで、在日フィリピン大使館のレイデルツ D.コンフェリド氏をお招きし、これからの日本とフィリピンとの新たな関係について講演していただきました。要旨は次のとおりです。



OUTLINE OF THE SPEECH

of Mr.Reydeluz D.CONFERIDO

Labor Attaché

Philippine Overseas Labor Office

Philippine Embassy Tokyo

For the 20th Anniversary of the Narashino International Association

Title:Toward a Multi-Cultural Society-

The Emerging Relationship between Japan and Philippines

1. Introduction-the relevance of the topic to the celebration of the 20th
2. Why Japan and the Philippines should welcome and work for the development of multi-cultural society
 - It is an imperative of globalization and sustainable development
 - It is the hallmark of labor market and societal complementation
 - It could be a source of strength and foundation of survival in today's global competition
3. Prospects of complementation between Japan and the Philippines:
 - a. Good example in the past and present-the maritime sector
 - b. Looking at the immediate future:
 - i. Nurses and Caregivers
 - ii. Engineers
 - iii. Other types of workers
 - iv. Retirement, wellness services, English learning in the Philippines
4. What the Civil Society can do to promote realization of Multi-Cultural Society
5. Conclusion and Recommendations

講演者：レイデルツ D. コンフェリド氏

多文化社会に向けてーこれからの日比関係ー
フィリピン海外労働局
労務担当官
在日フィリピン大使館

- 1) 序論ー演題の習志野市国際交流協会設立20周年記念式典への関連性
- 2) 日本とフィリピンが多文化社会を歓迎しその発展に取り組むべき理由
 - ・ 差し迫るグローバル化と持続的発展
 - ・ 質の証明された(フィリピンの)労働市場と社会的補完関係
 - ・ 今日のグローバル競争に生き残るための力と基盤の源泉
- 3) 日本・フィリピン間における補助活動の将来性
 - a. これまでの良い事例ー海事部門
 - b. 直近の展望
 - * 看護婦と介護士
 - * 技術者
 - * その他の労働者
 - * 退職者、保健サービス、フィリピンでの英語学習
- 4) 市民社会は多文化社会実現促進の為に何ができるか
- 5) 結論と提言



問5

日本の石油消費量は世界で（ ）位です。

シアトルマリナーズのイチロー選手の活躍で、日本でも馴染みの深い場所になったワシントン州のシアトル。じつは第二次大戦以前の日本にとっては、アメリカの玄関口としておなじみの都市だったのである。かつて海上輸送が主力だった時代に、横浜港で停泊したまま公開されていた氷川丸は、優美な船型とアール・デコ様式のインテリアなどから「北太平洋の女王」と呼ばれ、主にシアトル航路で活躍したのだ。かつて、今よりもずっと昔に、シアトルはもっと身近な存在だった。豊かな自然と、時代の先端を行くハイテク企業、そしてネイティブ・アメリカンの伝統。日本にいちばん近いアメリカ本土として、いちどは訪れてみたい場所である。

There's more than one Washington?

Located in the far Northwest corner of the U.S., Washington State has a name problem. It's often confused with Washington, District of Columbia, the capital of our country on the East Coast. Even by Americans, and frequently by foreign visitors.

We residents distinguish between the two by calling our state "Washington" and the capital "D.C." or "the other Washington." All visitors need to know is which coast they're visiting: West Coast = Washington State, East Coast = Washington, D.C.

And our state is worth visiting. Washington has snow-capped mountains (including five volcanic peaks), scenic ocean beaches, lush rain forests, alpine meadows, vast grasslands, dry deserts and deep river canyons. It has more than 1,000 natural lakes, hundreds of islands dotting salt-water channels, mountain waterfalls, wild untamed rivers and the dramatic Columbia River Gorge.

No other state offers such a variety of natural attractions. Our geography is the reason: Washington is bordered by the Pacific Ocean on the west, Canada on the north, Idaho on the east, and Oregon on the south. Dividing the state in the middle is the spectacular Cascade Mountain Range, which



runs north-south. These impressive mountains create two completely different climates. Western Washington enjoys cool marine air from the Pacific Ocean, but when clouds hit the Cascade Mountains, they drop their rain on the Western side. As a result, Eastern Washington is much drier. It has the prairies, grasslands and deserts, while the western part of the state is wetter and greener. Yes, Western Washington is famous for its rain - but no, it doesn't rain "all the time" as sometimes rumored. For instance, our largest city of Seattle averages just 38 inches of rain a year - less than Boston (44 inches), Atlanta (48 inches) and Miami (57 inches). In contrast, parts of Eastern Washington get as little as six inches of rain a year.

Western Washington does give the state its nickname of "The Evergreen State" for its lush forests and mountain

foothills. Two-thirds of the state's population lives in Western Washington, which draws visitors both for its scenic attractions and vibrant cities. Here's where Boeing, Microsoft, Starbucks and Amazon.com began and continue to flourish. Eastern Washington is known for its top-quality wheat, cherries and apples - including the most popular Red Delicious and Fuji apples.

A bit of history

Washington is a relatively young state. Being in the far Northwest, it attracted white settlers rather late compared to Oregon and California. However, Native Americans lived here for thousands of years before white explorers arrived. In fact, about 70 tribes dwelled in what is now Washington. Some tribes, such as the Quinault, Makah and Quileute, lived on the Pacific coast. Others, such as the Yakama, Colville and Spokane, lived in the eastern plains and valleys. Many cities, rivers, lakes and mountains in Washington still have their original Indian names. Today Washington is home to 29 Indian tribes with their own governments. They keep their ancient traditions alive with powwows, canoe races, songs, story-telling, dances and art.

European and Russian explorers began discovering Washington's coast via sailing ship as early as 1592 when Spanish explorer Juan de Fuca discovered the strait named for him. He and later explorers sought the fabled Northwest Passage from the Pacific to the Atlantic Ocean. While they never found it, they charted and named many of Washington's coastal features. For example, in 1792 British Captain George Vancouver was the first white man to record seeing Mount Rainier and named it to honor Admiral Peter Rainier. He also named Puget Sound for his friend, Peter Puget. Sometimes visitors puzzle over Washington's unusual combination of Indian, English and Spanish names given to our coastal features - and now you know why!

The famous Lewis and Clark Expedition was the first to arrive by land. Meriwether Lewis, William Clark and their band of explorers set off across the continent in 1803 and reached the Pacific Ocean at the mouth of the Columbia River in 1805. They were followed by fur traders and trappers eager to make their fortune in beaver pelts. The Hudson's Bay Company established several trading posts, including Fort Nisqually near Tacoma in 1833. Named for the local Nisqually Indians, it has been restored circa 1855 and is open to visitors. Docents dressed as early fur traders, Indians and trading post residents now reenact daily life in a fascinating, "living history" lesson.

In 1842 the first "wagon train" of pioneers headed west, beginning an amazing migration and creating the famous Oregon Trail. Thousands of settlers and their ox- and horse-drawn wagons followed the trail from St. Louis to the West Coast. One spur of the Oregon Trail ventured to Olympia,

now Washington State's capital. Originally part of Oregon Territory, Washington had enough people (3,965) to form its own separate territory in 1853. By the 1880s, Washington Territory had grown to 125,000 people - large enough for statehood. So on Nov. 11, 1889, Washington became the 42nd state of the United States.

Seattle

Today, Seattle is the major city in Western Washington - and the most well-known to overseas visitors because they usually arrive at the Seattle-Tacoma International Airport. Seattle is home to the 605-foot high Space Needle and 100-year old Pike Place Market, where the first Starbucks store opened in 1971. Seattle's vibrant waterfront features the Seattle Aquarium, Odyssey Maritime Discovery Center and departure dock for Argosy Cruises around Elliott Bay and through the Ballard Locks into Lake Union. The Seattle Center hosts many cultural events and festivals. The Experience Music Project is truly unique: a rock-and-roll museum, record-yourself studio, and home of the Science Fiction Museum and Hall of Fame.

Arts and culture abound, especially at the newly expanded Seattle Art Museum, Seattle Asian Art Museum and just-opened Olympic Sculpture Park: nine acres of soaring outdoor art, public gardens and stunning views of the Olympic Mountains across Puget Sound. Seattle also boasts a dynamic restaurant scene, both downtown and in its eclectic neighborhoods. It has many Japanese and Asian restaurants, thanks to a large, local Asian population. And the city tickles just about every other cultural taste bud, too - from Northwest cuisine to sophisticated international fare to authentic, Indian-smoked salmon at Tillicum Village. To experience Seattle's history, visitors can take the Underground Tour in Pioneer Square; it brings alive the city's boomtown era sparked by the 1890s Alaska Gold Rush. Another distinctly unusual tour is "Ride the Ducks:" amphibious vehicles that tour Seattle's high points by land and sea.

Western Washington

Just south of Seattle, the internationally acclaimed Museum of Flight displays aircraft from the beginning of powered flight to a supersonic Concorde and lunar spacecraft. North in Everett, the Future of Flight Aviation Center & Boeing Tour shows visitors how today's giant jets are assembled. Also from Everett, whale-watching boat tours depart. Northeast of Seattle, Woodinville's "wine country" offers about a dozen wineries open for tasting and tours. To the south, Tacoma's Museum District features a triangle of superb facilities: the Museum of Glass, Tacoma Art Museum and Washington State History Museum. Olympia has excellent tours of the State Capitol Building. The nearby Nisqually Wildlife Refuge is an abundant bird-watching sanctuary with more than 200 species and observation/photography viewpoints along seven miles of walking trails. Mount Rainier, the tallest peak in the state at 14,410 feet, is one of the most popular visitor attractions; it is crowned year-round with more than 35 square miles of snow and 26 major glaciers. Mount St.

Helens, our most famous and active volcano, used to look very much like Mount Fuji. However, it blew 1,312 feet off its summit in a violent 1980 eruption. Today visitors can tour the Mount St. Helens National Historic Volcanic Monument, view the blast site from several angles, and even hike up to the crater's edge!

Washington State ferries are a fun way to visit Puget Sound's islands, the scenic San Juan Islands, or the Kitsap and Olympic Peninsulas. The Olympic National Park is both a Biosphere Reserve and World Heritage Site, featuring magnificent, saw-toothed mountains, lush rain forests, and 600-year old trees that tower more than 300 feet high. Weather makes the rain forest possible: the Olympic Peninsula is the wettest area of the state, getting over 300 inches of rainfall per year. From the peninsula's rocky beaches, the Washington coast gradually softens southward into long sandy stretches near Ocean Shores, Gray's Harbor and Long Beach.

Washington's Eastern side

Cross the Cascade Mountains - and enter a different state. Eastern Washington is known for its sunshine, productive farmland, and most recently, a booming wine country. Premium wine grapes are now cultivated from Yakima to Walla Walla in southeast Washington. More than 300 wineries have opened, many offering tastings and tours. In fact, Washington now ranks second nationally in wine production. North of Yakima, Wenatchee proudly remains the "Apple Capital of the World." Lake Chelan is Washington's largest, longest and deepest natural lake with wonderful recreational activities and ferries that cruise its scenic 55-mile length. Lake Roosevelt is the largest man-made lake, stretching 151 miles behind Grand Coulee Dam. This amazing engineering feat dammed the Columbia River beginning in 1941; it is the largest concrete structure in North America and the third largest hydro-electric facility in the world. Today Grand Coulee Dam produces electricity for the Northwest and provides irrigation for over half a million acres of farm land, wildlife preserves and recreation areas.

Spokane is Washington's second largest city and the heart of the Inland Northwest. Located near the Idaho State border, Spokane combines arts and culture with outdoor activities. Nearby Mt. Spokane and its surrounding state park offer hiking and biking in summer and downhill skiing in winter. To the northwest are the Spokane and Colville Indian Reservations. To the south are the wheat-growing Palouse and Snake River country. Further west along the Washington-Oregon border, the mighty Columbia River carves out the Columbia Gorge as it makes its way to the Pacific Ocean. The gorge is the only natural break through the Cascade Mountains: 90 miles long and up to 4,000 feet deep! A U.S. National Scenic Area, the gorge has more waterfalls than anywhere else in the Northwest and some of the best wind surfing in the world.

We Washingtonians do hope you'll want to learn more at www.experiencewashington.com - and visit soon!

ワシントン州 (Washington WA) は、アメリカ合衆国西海岸最北部の州。正式な州都はオリンピアだが、経済面における中心はシアトルである。スターバックスの発祥の地、あるいは、マイクロソフトの本拠地として知られる。面積は、184,666 km² (全米第18位)、人口は、6,131,445人 (2003年・全米第15位)。西部で太平洋、南部でオレゴン州、東部でアイダホ州、北部はカナダのブリティッシュコロンビア州と接している。

小、中、高等学校、市民の皆様、17年間にわたりアラバマ大学主催「桜まつり俳句コンテスト」にご応募いただきましてありがとうございました。

残念ながら俳句コンテストの日本語部門は平成19年度（2007年度）をもって諸般の事情により終了となる旨、アラバマ大学 副学長 Dr. Jane Stanfieldからお知らせいただきました。日本文化の一つである俳句が、とりわけ小学生の皆さんにとっては、アメリカという異文化からの発信により、自国の文化を知るという逆説に大変、興味深いものがありました。こうした意外な展開を省みる時、俳句コンテストへの応募の機会を失ったことを大変残念に思う次第です。

市教育委員会、市総務部、応募者の皆様より長年にわたってご協力頂きましたことを心より感謝申し上げる次第です。今後これに代わるアラバマ大学との新しいプログラムの紹介を皆様にお伝えする日が来ることを楽しみにしております。

ここに記念すべき最終回の俳句コンテスト入賞者および作品を披露いたします。

なお、今回の入賞作品はNIA ホーム・ページ <http://www1.seapple.ne.jp/nia> でもご覧いただけます。

2007年度（平成19年度）俳句コンテスト入賞者及び作品

小学校高学年の部

1位	川岸に	A raft made out of fallen cherry flowers
小林 碧	静に出来る	Quietly floats
実花小学校5年	花いかだ	The river side
2位	街灯は	An outdoor lamp
ピッツ・ケビン	昆虫達の	Covered by all kinds of bugs
大久保小学校6年	まつりかな	As if there was a summer fair
3位	月の夜の	Lantern-offerings float
松島 実花	灯籠流し	Under the moon
大久保小学校6年	海ひかる	The sea shines with them

高等学校の部

1位	灯を消して	I turned my life off
瀬川 朋弘	星空に夜を	Letting the starry sky
津田沼高校	明け渡す	Guide my right
2位	灯籠に	Lantern-offering on the water
平戸 祐喜	願いをこめる	Prayers flow
津田沼高校	夏の海	On the summer sea

大人の部

1位	幼子の	A young child runs through
Mitsuko Miyagawa	駆け行く はなの	The field of flowers;
Birmingham, Alabama	光ちる	Light scatters
2位	北斎の	Mt. Fuji is covered by
小室 瑞江	富士よりのぼる	The New Year's sun
	初あかり	As if drawn by Hokusai
3位	漁り火が	Fishing fires oscillate
栗原 七郎	水面でゆれて	In the boats on the water;
	秋深し	Autumn deepens
4位	灯や	A light is burning;
御園生 馨	夜なべなつかし	Memories of night works in my younger
	古希迎え	days;
		I've turned seventy
5位	灯に	Eyes of deer shine
中村 庄司	光る 鹿の目	In the lamps
	冬の狩	Torched by winter hunters

Report／生徒英語研修派遣体験記

平成19年7月14日から29日までの16日間、習志野市教育委員会主催による生徒英語研修が実施されました。23人の生徒（市内中学生12人、市内在住高校生11人）が、タスカルーサ市を訪問しました。アラバマ大学の学生寮に滞在し、アメリカの大学生と同じキャンパスライフを体験する中で英語力を高めることが目的です。異文化社会での英会話を中心とした生活を通して、生徒たちは何を感じ、何を考え、どんな価値を見い出したのでしょうか。その一端（感想文の抜粋）を紹介します。



タスカルーサ市役所前にて

- 1年生の頃からこの企画に興味があったので、参加が決まった時は本当に嬉しかったです。

実際に来てみると、食事の問題や厳しいスケジュールのため、色々と悩むこともありました。しかし仲間と励まし合い、充実した2週間をすごすことができました。

ホストファミリー・ウィークエンドでは、窓の無いジープに乗せてもらったり、所有のボートで広い湖に泳ぎに行ったり、牧場で乗馬をさせてもらったり、日本ではなかなかできない数々の体験をさせていただきましたが、質問を聞き取るのが難しく、勉強が足りないなあ、と思い知らされました。

お別れの時、私は寂しさよりも満足感、そして「ありがとう」という気持ちのほうが大きかったです。ホストファミリーや先生たちとハグを交わし、私たちの研修は終わりました。この体験は忘れることなく、すばらしい思い出として私たちの胸に残ることでしょう。

- 学年や学校を越え、国を越え、習志野とタスカルーサをつなぐ、こんな経験はなかなかできるものではない。

（二中・K.S.）

- 地元のテレビ局のインタビューを受けたり、市議会に出席したことが印象に残っています。「自分」というものをきちんともっておくことが必要。

（千葉高・Y.S.）

- やっぱり国土面積のちがいはとても大きいなあ、と思いました。他にも、たくさんのちがいからいろいろなことを学びました。

（二中・H.G.）

- 大学では、難しくてわからないことだらけで、初めのうちは楽しく思えなかったけど、いつのまにか楽しくて仕方ない自分がいました。

（三中・H.M.）

- 英語が好きになれたらいいな、という思いで今回この研修に応募しました。英語も楽しくなり、毎日の授業が大好きになりました。

（三中・M.H.）

- 人と人とのコミュニケーションには、お互いを理解し合おうとする気持ちが大切なのだ、と改めて実感しました。

（六中・M.O.）

- 習志野市とタスカルーサ市の姉妹都市としての親交がとても深いことを実感しました。

（一中・S.G.）

- 自分の英語がうまく相手に通じるかととても不安だったけど、相手に分かってもらえるように努力すれば通じ合えることができました。

（四中・A.K.）

- 授業で一番難しかったのは発音で、はじめは全く上手くできませんでした。でも先生が何度も教えてくれて、上手できるようになりました。

（四中・N.O.）

- 私が今回の研修で学んだことは「失敗を恐れないこと」と「仲間と協力すること」です。

（六中・N.Y.）

- 英語を完璧に話す、ということより、相手に伝えたいという気持ちを口に出してみるのが大切なんだということがわかりました。

（千葉女子高・E.T.）

- 英語をもっと勉強し、日本についての知識も増やし、世界中の人達と話をしたいです。

（五中・Y.K.）

- テレビのインタビューでも答礼パーティーのスピーチでもトップバッターに立たされて、緊張しながらもうまくやってのけることができました。

（七中・R.K.）

- 同じ目標を持って参加しただけあって、やっぱりまとまりがあってひとつになれたと思いました。

（実習高・R.K.）

- 国際的な交流が数多く行なわれる今日において、異文化を体験して理解することは重要だと思う。高校最後の夏にこのような体験ができ、嬉しく思う。

（習高・M.N.）

会員紹介／こんにちは、コ・ン・ニ・チ・ハ／みなさん、どうぞよろしく！

今回は、李光さん、細根翔平君、仙石ダニエル君の3人を紹介します。ダニエル君は小学校5年生で、土曜日に小島明さんと学習しています。細根君は市立習志野高校の3年生で、青少年部会で中心となって活動しています。李光さんは中級で栗原さんの支援を受けて学習しています。

中国は世界の工場

李 光（中級日本語学習中）



私の生まれた国は中国ですが、土地の面積は世界で二番目です。人口は約13億人で、世界で一番の人口大国です。

中国はあまり豊かな国ではありません。私の少年時代の70年代後半、家には白黒テレビしかありませんでした。家族はみんなで、ご飯を食べながら、テレビを見ました。楽しかったです。子供時代が懐かしく思い出されます。童心に帰ります。

中国の元首相の鄧小平さんのおかげで、中国は80年代から改革開放の政策が採られました。その後、各国の投資家や実業家などが中国で土地を借りるようになりました。そして、たくさん工場が建てられました。いろいろな物を製造しています。例えば、有名なトヨタやホンダなどの車やスウェーデンのイケアなどの大手家具です。中国の企業は最新の技術を導入して、吸収します。中国人の職場も増えます。世界中で生活用品はほとんど中国製です。例えば、服やキーホルダーなどです。中国は段々経済中心の国になりつつあります。経済はどんどん発展しています。中国は世界の工場だと思います。世界に注目されています。中国の経済は景気がよくなって、私は中国の株を買うつもりです。これから、楽しみです。

入ってよかったNIA

細根 翔平



細根翔平です。習志野高校の三年生で、NIAに入って1年半くらいになります。

会員になったきっかけは、タスカルーサ市への青少年派遣でした。その説明会のときに交流協会があることを知り、会員になろうと思いました。

今までは部活をしながらこちらの活動もしていたのでイベントに参加できないことも多く、両立が大変でした。今は3年生で部活も引退したので今まで以上に良い経験をさせていただいています。

活動を通して色々な人と知り合ったり仲良くなったりすることもできました。この前ALTサロンで出会った方にはフランス語を教わっています。国に関係なく色々な人と知り合えるということや、イベントの運営等で勉強することも多いです。

とくに青少年部会では各国大使館訪問やカルタ作り、クリスマスパーティーなど企画が充実しているので参加していてとても楽しいです。しかし今困っていることがあります。それは人数が少ないということです。もしこれを読んでいる中学生や高校生がいたら是非一度NIAの事務局まで来てみてください。何か興味のある物が見つかるはずです。これからもさまざまな交流活動に参加していきたいです。

I'm looking forward to seeing all of you. Also, I hope that many other, will join NIA.

日本語の勉強は楽しいな！

仙石ダニエル



ぼくはボリビア出身で10歳、八千代市の小学校5年生です。2005年12月に日本へ来ました。8歳の時でした。以前お母さんがNIAの日本語講座で勉強していたので、お母さんから言われて、ぼくもここへ通うようになりました。NIAで勉強を始めて2年になります。漢字が難しいですが、日本語の勉強が楽しいので、漢字はたくさん覚えたし、いろんな話し方も覚えました。

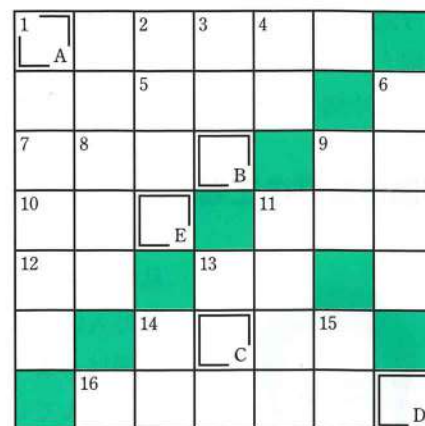
Let'sチャレンジ/ザ・英文クロスワードパズルNo.79/プレゼント付!

<Across>

1. The warmest season of the year, between Spring and Autumn.
5. Organ of hearing.
7. To cut (wheat etc.) with a sickle, scythe, or machine, as in harvest
9. Football Association
10. Interest
11. Petroleum
12. North Dakota
13. Military Medal
14. Piece of metal money.
16. The cold season between Autumn and Spring.

<Down>

1. Season between Winter and Summer..
2. The flesh of animals as used for food.
3. A representation of the earth's surface, or part of it.
4. A chemical symbol for Erbium.
6. (U.S.A.)Autumn
8. Farthest or last part.
9. For instance
11. To leave out or neglect to mention.
13. Monday
14. Crown of India
15. New England



<出題者> 御園生 馨 (編集部)

<応募要項>

クロスを解いたあと、A~Eの文字をつなげてできたことが正解です。

解答と住所、氏名、年齢、職業、電話番号、本誌の感想等を書いて送って下さい。解答は、ハガキ、FAX、Eメールで9月末日までにお送り下さい。

正解者の中から抽選で5名の方に、図書券をプレゼントします。

「N.I.A.スクウェア」編集部まで。

たくさんのご応募お待ちしております。

皆さんふるってご応募ください。

今回、新しい試みとして数字で捉える「日本と世界」というクイズを考えました。2ページから7ページの余白を利用して問題を出してあります。どの質問も常識的なものですが、出典は外務省など公的機関の資料を使っています。

今回はとくに小・中・高校生のチャレンジをお待ちします。学校の図書室で調べたり、ご家族や友人との話題になればいいと思います。解答は、NIAの事務局内スクウェア編集部へ下記の要領でお送りください。

問い1から6までの(答え)の数を合計したものが解答となります。

「例」() + () + () + () + () + () = 解答

必要事項として・住所・氏名・年齢・職業または学校名・電話番号・そして本誌への感想などもお書きください。ハガキ、FAX、Eメールで〆切り日9月末日。

正解者の中から抽選で10人の方にNIA特製プレゼントを差し上げます。

編集後記

●79号をお届けします●さる8月4日、NIAの設立20周年記念式典が茜浜ホールにおいて盛大に挙行されました●今号は式典・記念講演・祝賀会を紹介するとともにタスカルーサ市姉妹都市委員会専務理事リサ・キースさんからのご祝辞を掲載しました●感無量なものがあります●スクウェアも次号は80号になります●人でいうと傘寿ですが、スクウェアは若返ります●内容の精選を図り、楽しく役に立つ情報をお届けしたいと考えています●広報誌は双方向の性質があります●読者の広場への投稿をお待ちします。

お詫び

77号、スペインの記事、78号Let'sチャレンジの英クロについてミスがありました。ここにお詫び申し上げます。(編集部)

応募者の感想

○佐藤昌弘さん(藤崎)

前回のパズルで小学生の娘が当選し、とても喜んでいました。教室でスクウェアが配られた時、クラスみんなから「すごいねえ」と言われたと得意げに話してくれました。頂いた図書カードは宝物として大事にとっておくそうです。本当にありがとうございます。

○林澄人さん(船橋市)

1頁の英語(国別)が大変勉強になるので、できれば毎号続けてほしいです。

N.I.A.スクウェア・第79号

発行2007年9月1日/発行責任者・山田大三

編集・習志野市国際交流協会

編集責任者・石川 澄郎

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼5-12-12

サンロード4F

TEL/FAX 047-452-2650

http://www1.seaple.ne.jp/nia

<Eメール> nia@seaple.ne.jp